



「絵解きで調べる昆虫」

日本環境動物昆虫学会編

初宿成彦監修 文教出版

平成 25 年 5 月 20 日初版発行 定価 3,600 円

今でこそ電子ファイル化してしまったが、かつてパソコンの本体には大仰なマニュアル冊子が付属していたものだ。だが、概してこの手のマニュアルは消費者の評判が良くなかった。理由は単純明快だ。「初心者にはよくわからん」からである。ようするに、パソコンのマニュアルは技術者が自分の知識レベルに合わせて執筆しているのだから、右も左もわからぬ人間に理解できるはずがない。このような説明がなされていたと記憶する。

昆虫の検索表も同じだ。その虫のことを知っている専門家が検索表を作るのだから、初心者にとってチンプンカンプンに仕上がるのはある意味仕方がないのである。評者の恩師であり、本会の会員の森本桂九州大学名誉教授は「検索表が使えるようになる頃には（中身を暗唱できるレベルに承知しているので）、検索表はもはや不要になってしまう」とかつて言われていたものである。

検索表とはそういうものなのであるが、初心者でも何とか使えるように工夫されたのが絵解き検索である。読者の形態用語の知見が乏しくても、図を豊富に付けることによって、読者は両分類群の違いを明確に把握することができる。トンボやチョウではお馴染みのスタイルだが、これをマイナー昆虫に適用したのが「絵解きで調べる昆虫」（文教出版）である。

本書は大きく 12 章に分かれており、13 人の著者が執筆されている。もっとも、原著の専門書ではなく、1991 年以降に日本環境動物昆虫学会が開催した講演会時に配布した資料を基にしている。いわば論文集である。したがって、字のフォント、文体、参考文献の表記等の統一がなされていないのはやむをえない。

全 12 章のうち、コウチュウは以下のような内容の 6 章を構成している。

- 1) ピットフォールトラップによる地表性コウチュウ類の調査マニュアルおよび主要地表性コウチュウ類の科、亜科、種への検索表（著者：富永修氏）
- 2) オサムシ上科の亜科までの絵解き検索。一部の分類群については属、亜属、種までの検索含む（八尋克郎氏）

3) コメツキムシ科の亜科、属への検索。表題は絵解き検索となっているが、従来型の文章が中心の検索表で、絵解き検索とは称しがたい（大平仁夫氏）。

4) ジョウカイボン科の亜科、属への絵解き検索。コバネジョウカイ、ツマキジョウカイ、チビジョウカイについては種までの検索含む（高橋直樹氏）。

5) ハナノミダマシ科の種までの絵解き検索。種ごとの簡単な解説もあり（初宿成彦氏）。

6) ゴウムシ上科の科、亜科までの絵解き検索（吉武啓氏）。

本書にイチャモンをつけるのは容易い。どうにもこうにも原著資料からのスキャニングの質が悪い。したがって内容自体は学術的に高度でも、外観は高校の生物クラブの定期刊行物レベルではないかとの指摘も可能だ。また、標本写真が白黒であるのはやむをえないにしても、比較資料として実用に耐えない質となっている。

だが、そんなことは些細だと言い切れるだけの内容的な厚みを持った書籍である。同じような大図鑑が繰り返し販売され、愛好家は出版社にカネを収奪され、中身にはお腹一杯のチョウやトンボとは、コウチュウの事情は異なる。非専門家がコウチュウ類の同定の際に使う重要資料は 80 年代半ばの保育社の甲虫図鑑が今なお最新の出版物なのである。専門論文を読む機会がない方々からすれば 30 年前の知見に頼らざるを得ないのが実情だ。そのような現状の中、非人気コウチュウを対象とした絵解き検索の論文集の発売は、極めて意義があるといえよう。

評者はまだ実物の標本と照らし合わせてこれらの検索表の有用性を試してはいない。しかし、八尋氏のゴモクムシ類の亜属への絵解き検索（ただし検索中の図版は春沢圭太郎氏の原因に由来）や大平氏のコメツキムシの属への検索などは使ってみたくてウズウズしている。本書は、非専門の愛好家やアセスメント会社の職員の方々にとって今後、最重要文献の一つとなっていくだろう。

本書は残念ながら一般書店では販売されておらず、また某最大手通販サイトでも扱われていない商品である。入手御希望の方は、編者である日本環境動物昆虫学会の web サイト (<http://kandoukon.org>) へ直接申し込んでいただきたい。本年 8 月の段階では在庫はあるようなので、今すぐなら購入は可能なはずである。

（福井大学教育地域科学部 保科英人）